



鷺子山は栃木県と茨城県の県境に存在する標高約470mの山で、山頂には鷺子山上神社があります。この神社へ続く石の階段をのぼる途中、楼門の左手前に鷺子山の十景七奇を刻した石碑があります。

【十景七奇とは】



十景七奇の碑

「十景七奇」とは、2代水戸藩主徳川光圀が鷺子山を訪れた際に選んだとされる10のすぐれた景観（十景）と、7つの不思議（七奇）のことです。これを元に、9代水戸藩主徳川斉昭の命令により、藩の学者青山のぶとし延寿が碑文の元となる文字を書き、鷺子村の薄井宗七が嘉永4年（1851）に十景七奇の碑を立てました。

【鷺子山十景】

十景は以下の10の景観が選ばれ、石碑では「鷺子山十景」と刻まれています。

- ①「海天旭日」：太平洋からのぼる朝日。現在では成長した木々により見ることはできません。
- ②「晃山霽色」：雨上がりの晴天下の日光連山の景色。
- ③「富士晴雪」：晴れた日に見える冬の富士山。
- ④「村家炊煙」：民家から立ちのぼる朝夕のかまどの煙。現在、かまどが使われなくなり見られません。
- ⑤「杉林初月」：杉林の中から見る三日月。
- ⑥「鹿浦眺望」：鹿島浦の眺め。こちらも①と同じく木々の成長により現在では見られません。
- ⑦「河川帆影」：那珂川に見える帆掛け舟の影。現在は見られません。
- ⑧「雨堤暁晴」：雨堤（表参道旧道の地名）での明け方の晴れやかな気分。
- ⑨「野寺晚鐘」：周辺のお寺の夕暮れ時の鐘の音。
- ⑩「烏山城望」：烏山城。今は城跡になっています。

【山中七奇】

七奇は、以下の7つが選ばれ、石碑では「山中七奇」と刻まれています。

- ①「神酒」：旧暦10月16、17日（現在は11月の第3土曜）

に行われる夜祭にお供えする一夜酒。今は夜酒ではありませんが、神酒や供物と同じものを人も飲食する神人共食の儀式が存在します。

- ②「神鳥雌雄」：鷺子山にはカラスがオス、メス1匹ずつ、2匹しか生息せず、子を産んだとしても2匹になるようにカラスが出て行くという伝説。
- ③「井中石亀」：水が出ないはずの山上の井戸に亀形の石を沈めると水が出るようになったという伝説。この井戸は「亀井戸」と呼ばれ現在も神社に存在します。
- ④「禁不祥」（禁不浄）：月経の女性が亀井戸の水をくむと濁るので、くむのを禁止したという伝説。
- ⑤「柿実 在建武村」：夜祭にお供えした、実が三つ房の形に成る不思議な柿。この柿の成る木が建武村（現栃木県那珂川町建武）にありましたが、現在は枯れてしまっています。
- ⑥「三本蘆 在矢又村」：祭神にささげる幣束の串にするための葦。1つの株から3つ芽が出る珍しい葦で、矢又村（現栃木県那珂川町矢又）に存在します。
- ⑦「阿良沙巨」（阿良左巨）：アラサゴ（粳）とツキサゴ（白米）を夜祭にまく神事。

※十景七奇で読みが不明な箇所についてはルビを記載していません。

【鷺子山と光圀】

光圀は藩内の見回りをする一環として、延宝元年（1673）9月と元禄8年（1695）8月に鷺子山を訪れています。しかし、十景では冬の富士山、七奇では10月の夜祭に関することを選んでおり、光圀はこの2回以外にも鷺子山を訪れていたのではないかと想像されます。この地は光圀にとって、十景七奇を思わず選んでしまうほどに、風情を感じ、好んで何度か足を運ぶ場所だったのかもしれません。

「十景七奇」の中には、現在もいくつか見ることでできるものがあります。光圀の感じた風情を探しに鷺子山に出かけてみてはいかがでしょうか。

＜参考文献＞

『馬頭町史』（馬頭町、1990年）

『水戸藩領時代の武茂郷』（馬頭町教育委員会、2002年）

『鎮座千二百年記念誌 鷺子山上神社』（鷺子山上神社社務所、2007年）

■問い合わせ■

文化スポーツ課 文化・スポーツグループ

☎ 52-1111 （内線 344）